

第35 回「気象予報士の『からあげ』」

航空気象群ホームページ「気象の杜」をご覧に頂き、誠にありがとうございます。今回は、「からあげ」について紹介したいと思います。

皆様が「からあげ」と聞いて一番最初に思いつくものは何でしょうか。みんな大好き、お弁当のお供「唐揚げ」ですよね。



浜松基地隊員食堂で食べられる三ケ日
みかん風味の空自空揚げ
出展：浜松基地HP（レシピ掲載）

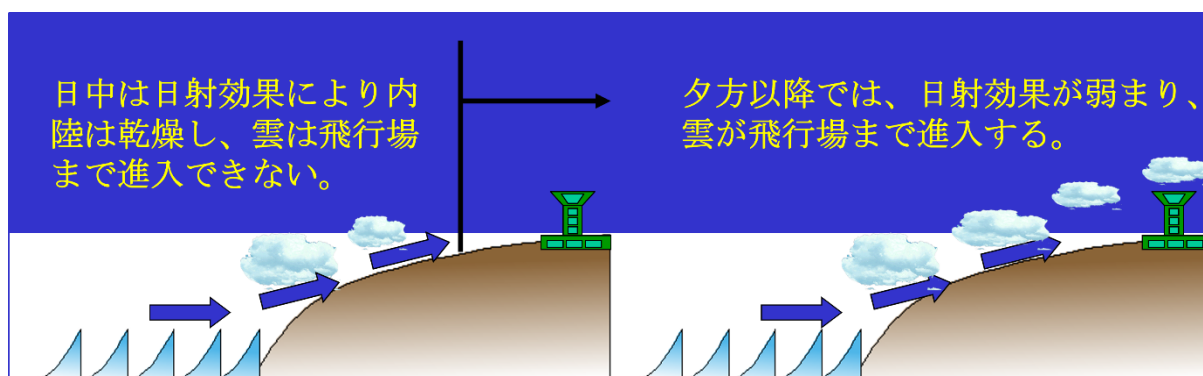
ところが、浜松の気象部隊で勤務すると、天気を予想する上で頭を悩ませる気象現象が思い浮かぶようになります。気象現象の「からあげ」とは、主として夏季（6月～8月）に湿った海風の流入により沿岸部で低い雲が発生する現象です。浜松飛行場では、夕方（15時～18時）から夜の初め（18時～21時）にかけて、晴天から一転、急に低い雲が広がることがあります。

「からあげ」の語源には諸説ありますが、静岡県漁師の間で使われるようになったと言われています。この低い雲が漁から引き揚げる目安になっているそうです（海岸付近が霧や雲で覆われて無事に着岸できなくなるため。）。



浜松基地の飛行隊はパイロット学生の教育部隊なので、この低い雲があると教育に大きく影響を受けます。発生を予想することも難しいため、夏場は毎日悩まされています。

発生の原因については、浜松基地の地形にあると考えられています。浜松基地がある三方原大地は、遠州灘の沿岸部付近よりも、約50m高台になっている（※イメージ図参照）ため、南寄りの風が吹くと弱い上昇気流が発生しやすくなっています。海上から吹く風が十分湿っていると沿岸部に沿って雲が発生し、日射効果の弱い夕方以降に内陸まで雲が進入してきます。このため15時頃から陸風（陸から海に吹く風）に変わる21時頃まで飛行場上空で曇りとなることが多くなります。まさに夜間の飛行訓練を行っている最中に発生するので、気象隊泣かせの現象です。



※イメージ図

我々気象部隊の隊員は、「からあげ」が発生する日と発生しない日について研究を行っており、天気の前報精度の向上に努めています。この「からあげ」に限らず、天気には一日として同じ日はありません。天気は面白い反面、とても難しいものであり、普段生活する上で、とても重要な因子だと思います。最近は異常気象とよく言われており、災害をもたらす大雨や強風などの気象現象も増えてきています。防災上の観点から少しでも気象の知識を身につけて生活の糧にしてみたいかがでしょうか。

最後に「唐揚げ」の話に戻りますが、浜松基地に隣接する浜松広報館エアーパークでは、地元企業とのコラボにより、基地で出している空自空揚げを再現した、からあげを販売中です。